

3rd Circular

2007年10月10日

* 第14回東京科学シンポジウム *
* *
* テーマ：平和と公正な社会を求めて *
* *
* 開催日時：2007年12月1日(土)～2日(日) *
* 開催場所：一橋大学(国立・東キャンパス) *
* 主催：日本科学者会議東京支部 *

第14回東京科学シンポジウム 3rd Circular 発行にあたって

会員のみなさん、協力者のみなさん

実行委員会は、メインテーマ「平和と公正な社会を求めて」を設定し、みなさんとともに努力をかさねてまいりました。みなさんの創意と熱心なとりくみにより多数の応募があり、必要な調整をおこなって、2つの特別講演、16の分科会、3つの市民参加の企画、東京支部の活動を紹介するポスターセッションなどの設置が決まりました。分科会での研究発表数は69件、なお発表を検討中のものもあり、メインテーマにふさわしいシンポジウムが期待されます。

実行委員会が本テーマを設定した時には、安倍首相が「美しい国 日本」をかかげて、貧困と格差拡大の「構造改革」の推進と憲法改悪の路線をひた走る最中のことでした。しかしその後の参議院選挙で国民から「自公政治ノー」の審判がくだされ、安倍政権は自壊し、自公連立福田政権に交代せざるをえなくなりました。福田首相は「希望と安心の国づくり」を掲げ、介護・年金・医療などあらゆる分野で社会保障を切り捨ててきた「構造改革」路線をひきつづき推進しようとしています。

安倍政権は解釈改憲と明文改憲を両面から追求しましたが、福田政権はとりあえず明文改憲を前面に押し出せなくなり、改憲スケジュールは変更を余儀なくされる面も生じました。しかし、自民党が「新憲法草案」をつくったときの起草委員会で、安全保障問題の委員長をつとめた福田氏の経歴や新内閣の顔ぶれからして予断は許されません。

本シンポジウムの眼目は、「構造改革」路線のもとで閉塞状況に立ち至った科学・技術の現状を打開する道すじを見いだすこと、改憲の発議を許さない力関係を早急に築きあげること、国民の期待に応える真の受け皿の探求とたたかいに知力をもって参加し、平和と公正な社会を求めて連帯を強めることです。

本シンポジウムの成功を期して力を合わせましょう。

2007年10月1日 実行委員長 長田好弘

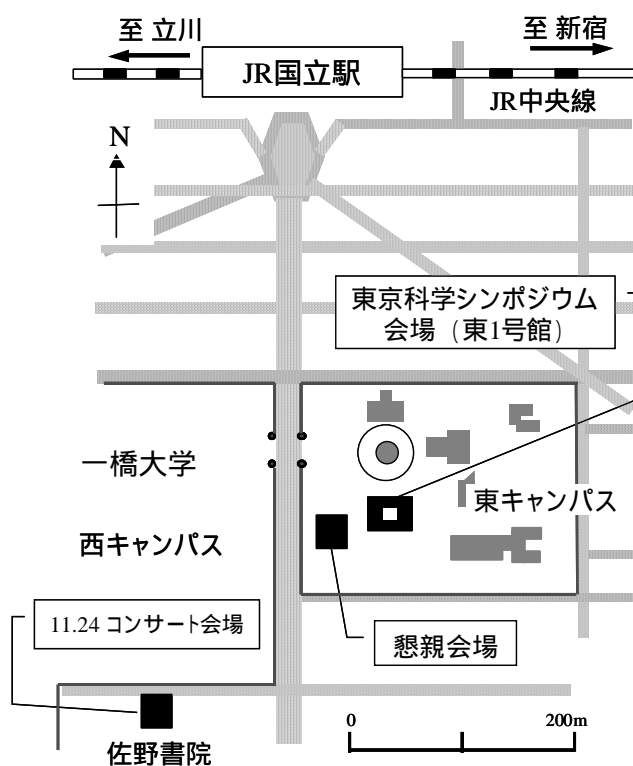
1. 開催日程（予定）：

	時間帯	内容
12月1日(土)	10:30~10:50	受付
	10:50~12:00	全体集会・特別講演
	13:00~17:00	分科会
	17:30~	懇親会
12月2日(日)	9:20~12:20	分科会
	13:20~14:20	特別講演
	14:30~17:30	分科会

2. 会場へのアクセスと会場案内：

一橋大学国立キャンパスの東キャンパス
JR国立駅下車、南口より徒歩6分。

3. 参加費・懇親会費：



種別	参加費	懇親会費
一般	1,000円	3,000円
院生・学生	500円	1,000円

* 会員・非会員の区別はありません。参加費には予稿集代を含みます。

事前参加申込： 本3rd サーキュラーに同封の郵便振替用紙をご利用ください(手数料不要)。

郵便局備付けの郵便振替用紙利用の方は、必要事項(お名前、ご住所、一般・大学院生の区分、懇親会参加有無、合計金額)を記入して、振込んでください(要手数料)。

□ 座名：日本科学者会議東京支部

□ 座番号：00160-9-86898

* できるだけ早めに事前登録をお願いいたします。

、 の振替用紙の半券を保管して、当日お持ちください。

会場での当日受付： 当日参加の方は、参加申込書にご記入のうえ参加費等をお支払い下さい。

昼食： 会場外のレストランが少なく混むことが予想されます。各自でお弁当を入手してご持参されるようおすすめします。

懇親会： 12月1日 17:30 より 東プラザ(生協2階)で行います。

4. 全体集会と特別講演 : 12月1日(土) 10:50~12:00

全体集会では実行委員長が挨拶し、すぐに特別講演に移ります。

福田談合内閣の発足と日本政治の前途 - 歴史的国際的脈絡において考える

五十嵐 仁氏 (法政大学・大原社会問題研究所)

趣旨：安倍首相の突然の辞意表明によって、日本政治は大混乱に陥り、自民党政治はかつてない危機に直面した。混乱の收拾と危機からの脱出を託されたのは、「歳も歳だし」と言っていた福田康夫であった。安倍前首相は「美しい国」を掲げ、改憲と戦後レジームからの脱却を目指した。その「改憲内閣」の美しくない幕切れが、思いもよらぬ福田内閣を誕生させたのである。その力となったのは、派閥ボスたちの談合であった。安倍内閣の挫折を見た派閥ボスたちは、「もう、若い者には任せておけない」と、表舞台に姿を現したのである。党と内閣に勢揃いした派閥領袖の姿は、自民党の危機感の強さと古い自民党の復活を如実に物語っている。このような事態が何故生じたのか。それは日本政治の前途にどのような意味を持っているのか。歴史的な経緯と国際的な背景を踏まえて、これらの問いに答えてみることにしたい。

特別講演 : 12月2日(日) 13:20~14:20

「日米同盟」再編とアメリカの世界戦略

新原 昭治氏 (国際政治学者)

趣旨：憲法第9条の改悪の動きの土台にあるものは、米世界戦略への日本の軍事加担の深化を迫るブッシュ政権の要求である。このことを裏づけるには、ブッシュ政権の対日要求をリアルにつかむ必要がある。ここ数年来、「米軍再編」の名のもとに日米間ですすめられてきた取り組みの重要な狙いの背景には、米国防総省極秘文書が示すように、イギリス軍並みに自衛隊を米軍と肩を並べて戦闘できる戦力にしようとするアメリカの戦略的要求があった。新資料をもとに、ブッシュ政権の露骨な対日要求の実像を明らかにしたい。そして、日本を戦争する国に変えようとする「日米同盟」の動きの危険を糾明し、同時にそこにひそむ同盟の深い矛盾にも目を向けたい。

5. 分科会と論文発表のプログラム： 12月1日、2日

分科会の時間枠は、1日午後、2日午前・午後です。開会・終了時間は分科会によって異なるのでご注意ください。「分科会開催時間枠」に全分科会の時間枠を一覧表で示してあります。分科会のテーマ、プログラムは以下の通りです。

第1分科会：わが国の科学・技術と研究者の状態

～科学・技術の総合的な発展とその成果を平和と福祉に資するために～ (12月1日午後)

設置責任者：長田好弘(武蔵野通研分会) 米田 貢(中央大学)

連絡責任者：長田好弘 osada168@dream.ocn.ne.jp

設置趣旨：わが国の学問・研究は、いまや、「構造改革」路線の強行により、危機的状況あり、その打開のための国民的な議論と行動が求められている。科学・技術のつり合いのとれた発展とその成果を平和と国民生活に資するため、政府がすすめる科学技術政策・行政の問題点を理論的に解明するとともに、学問・研究教育の現場の問題解明が重要であろう。本分科会を各分野・職場からの課題提起と解明、産学官共同の現状と本来あるべき姿など、討論と連帯の場としたい。

【1】長田好弘(武蔵野通研分会) 課題提起：研究者の連帯とたたかひの前進をどうはかるか

【2】悠永度輝(民間企業研究者) 民間大経営における技術労働者の状況

【3】本村友男(民間企業研究者) 研究開発領域の機会縮小と流動化

【4】松永光司(武蔵野通研分会) 長田好弘(同) 酒井士朗(同)

NTT 研究所における研究者の現状と権利要求のたたかひ

【5】井亀 優(運研分会) 独法研究機関の現状

【6】川合将文(都立研分会) 都立の試験研究機関の現状 ～都民の生活、安心、安全、健康は守れるか～(仮題)

【7】東京私大教連 私立大学の管理・運営問題(仮題)

【8】全大教(調整中) 独法化以降の国公立大学の管理・運営問題(仮題)

【9】丹生淳郷(科学者の権利問題委員会、埼玉支部) あらためて「研究者の権利・地位と倫理」について考えよう

<総合討論>

第2分科会：検証：靖国派・安倍氏の「美しい国 日本」

(12月1日午後)

設置責任者：米田 貢(中央大学) 長田好弘(武蔵野通研分会)

連絡責任者：米田 貢 myoneda@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨：美しい国を標榜しつつ、日本を「戦争のできる国」に転換し、勤労国民に生活苦を強いる政治が強行されている。改悪教育基本法の主要な狙いの一つは、国家による国民の規範意識の統制である。他方、新自由主義イデオロギーの流布のもとに、市民の自己責任が強調され、国民諸階層で能力主義的格差の受忍が強制されている。復古主義的な装いと国際貢献という現代的姿とを合わせてもって台頭しつつある現代日本のナショナリズム。基本的人権・平和主義・国民主権の3大原則を謳う日本国憲法のもとで暮らしてきた日本の市民・国民として、現代日本のナショナリズムをいかに捉えるべきか、多面的な視角から自由に討論したい。

【1】金子 勝(立正大学) 「美しい国 日本」とは、どんな国なのか

【2】佐藤広美(東京家政学院大学) 教育再生会議と人間観の問題

【3】渡辺俊彦(中央大学) グローバリゼーションとナショナリズム

第3分科会：新自由主義的構造改革による生活破壊といかに闘うのか (12月2日午前)

設置・連絡責任者：米田 貢(中央大学) myoneda@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置趣旨：生活保護の申請を拒否され孤独死する地域住民、高校や大学を出ても正規職につけないまま生活保護水準以下の暮らしを強制される若者、払ったはずの年金保険料まで詐取される高齢者、その責任を社会保険庁の一般公務員に押し付け民営化を強行する政府。これらすべてが、新自由主義的構造改革の帰結である。小泉・安倍政権が主張する市場原理の尊重、公正な競争は、社会的格差の拡大を容認し、政府の公的責任を放棄するための口実にすぎない。彼らが主張する自助努力、自己責任論といかに対峙し、社会的連帯を広げていくのか。新自由主義に対する学問的批判と国民諸階層の生活を守る運動との連携をめざす。

【1】木下ちがや(一橋大学院生) 新自由主義と国家の再編 - その分析の視角

【2】米田 貢(中央大学) 戦後日本経済の歴史的発展と新自由主義的構造改革の位置

【3】平野 健(中央大学) 新自由主義とグローバリゼーション

第4分科会：新自由主義と情報・通信技術 (12月2日午前)

設置責任者：酒井士朗(武蔵野通研分会) 松永光司(同) 長田好弘(同)

連絡責任者：酒井士朗 ssakai@jcom.home.ne.jp

設置趣旨：小泉内閣の構造改革は、グローバル化、競争万能、規制撤廃、小さな政府など新自由主義的政策を推進したが、それは全世界を瞬時に結ぶ情報通信網やIT技術情報・通信技術を活用した新たな労働強化と大リストラを抜きには語れない。また情報・通信技術のマスメディアや文化などへの影響も甚大でありその否定的側面も危惧されている。同時に携帯やインターネットなど新たな手段を活用した民主的運動と連帯も広がっている。本分科会では、情報・通信技術をめぐってのさまざまな体験(生産・流通・労働状態の変化、コミュニケーション、マスメディアなど)を交流し、問題点の解明と改善の方向を探り、国民的連帯をはかりたい。

【1】今宮謙二(中央大学名誉教授) グローバル化と金融技術

【2】酒井士朗(武蔵野通研分会) 長田好弘(同) 情報通信システムの信頼性について

【3】矢作英夫(武蔵野通研分会) 酒井士朗(同) ユニバーサルサービスのあり方を問う

【4】松井健一(東京自治労連) 公務職場のIT化がもたらす問題

第5分科会：徹底討論：監視社会とIT技術 (12月1日午後)

設置責任者：酒井士朗(武蔵野通研分会) 矢作英夫(同)

連絡責任者：酒井士朗 ssakai@jcom.home.ne.jp

設置趣旨：自衛隊による国民監視の実態の一端が明るみに出たが、何が悪いのかと開き直す防衛大臣の姿に権力の監視社会への要求の強さをあらためて実感する。一方犯罪の多発に監視カメラの設置を求める住民要求も少なくなく、テロ対策として鉄道改札口に監視カメラを設置し、テロリストを割り出す国土省の実験も昨年行われた。今日、IT技術を利用してどのような監視が可能か、監視カメラで犯罪をなくせるのか、権力への情報漏洩は防げるのか、共謀罪や盗聴法との関係はなど、多くの視点から交流と討論を行いたい。

【1】新屋達之(大宮法科大学院大学) 日本社会の監視社会化と法の動き

【2】酒井士朗(武蔵野通研分会) 監視カメラ利用の現状と課題～民主的規制をめざして

【3】佐藤 豊(武蔵野通研分会) 矢作英夫(同) 監視に関わる新技術の動向～新技術開発のあり方にもふれて

【4】橋本しげき(武蔵野市議) 酒井士朗(武蔵野通研分会) 自治体による監視カメラの規制～杉並区の経験から～

第6分科会：地球温暖化問題と持続可能社会

(12月2日午後)

設置責任者：増田善信(元気象研究所研究室長)**連絡責任者：**俣野景彦(武蔵野通研分会) matano@mug.biglobe.ne.jp

設置趣旨：IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は第4次評価報告書を発表し、「温暖化は疑う余地がない」とほぼ断定し、その影響は各方面で既に現れており、早急に対応策をとらないと、深刻な被害が出ると警告した上で、社会・経済構造を変えて適切な緩和策をとれば、GDPの3%の損失、場合によっては省エネ技術など新しいビジネスによってGDPを増やしながら、気温上昇を2%以内に抑えることが可能である、ことを示した。当分科会では、このIPCCの報告書の線に沿って、温暖化の実態と将来予測、温暖化と異常気象との関連、温暖化の生態系や農業・漁業への影響など論じた上で、省エネ技術、自然エネルギーの利用、原発など具体的な緩和策を通して、持続可能な社会をどのようにして築いていくかを論じる。

【1】増田善信(元気象研究所) 地球温暖化と異常気象。その実態と将来予測

【2】西岡秀三(元国立環境研究所) 温暖化の影響全般の問題 - 生態系、農業、漁業、感染症 -

【3】歌川 学(産総研) 温暖化防止と国際的取り決め

【4】館野 淳(元中央大学) 原子力エネルギー問題と地球温暖化問題について

<総合討論>

第7分科会：首都圏における公害・環境問題

(12月1日午後)

設置責任者：橋本良仁(高尾天狗裁判事務局長) 俣野景彦(武蔵野通研分会)**連絡責任者：**橋本良仁 cap-mt.takao@nifty.com 俣野景彦 matano@mug.biglobe.ne.jp

設置趣旨：首都圏とりわけ東京への一極集中の度合いは政治、経済を始め、あらゆる分野において極度な状態にある。戦後60年足らずの間に行われてきた経済優先の開発によりかろうじて残っていた自然環境は失われ、都市住民の生活環境は次第に破壊されてきた。さらに環境破壊が進むならば、首都圏では人が安心して生活できなくなる。具体的な事例を検証しながら、今後、いかにして豊かな環境を保全できるか、首都圏の公害・環境問題を検討する。

【1】杉浦公昭(元東洋大学) 所沢市北部「くぬぎ山」自然再生事業の安全性の検討・その後

【2】北浦恵美(さいたま西部・土と水と空気を守る会) 埼玉県所沢市周辺の産業廃棄物処理施設群を巡る問題の経緯と現状

【3】松井安俊(東京支部・個人会員) 蝶から見た東京の環境

【4】中山俊雄(都立研) 川合将文(同) 能登半島沖地震・中越沖地震災害からみた東京の防災まちづくり

【5】吉山寛(高尾分会) 高尾山の自然が危ない

【6】原希世巳(東京大気汚染公害裁判弁護団事務局長) 東京大気汚染裁判の到達点と今後

【7】築地市場移転問題研究グループ・坂巻幸雄(東京支部) 豊洲土壌汚染地への築地市場移転問題を考える

第8分科会：文学作品に見る女性像の変遷

(12月2日午後)

設置責任者：風見梢太郎(作家) 石渡真理子(元東京大学)**連絡責任者：**風見梢太郎 kazamishotaro@mail.goo.ne.jp

設置趣旨：文学に描かれる女性像は、時代の変遷によって大きく変わってきています。世の中の進歩や、長年にわたる女性の権利獲得・地位向上のための闘いの結果がおのずと作品に反映されるからです。また、根強い女性差別に対する批判も現代の文学作品に描き継がれています。

社会の進歩をめざす文学の中には、女性の権利獲得の闘いを真正面から描いた作品もあります。最近の話題作、研究者・技術者を描いた作品にも触れ、文学に描かれた女性像、女性の地位・権利などについて、作家と文学愛好者・これから文学に親しもうとする方々との幅広い交流、討論の場になれば幸いです。

【1】風見梢太郎（作家） 基調報告 近・現代文学の中の女性像

【2】山形暁子（作家）銀行で働く女性労働者の苦悩とたたかいを描いてきて

資料：山形暁子『家族の小径』『山形暁子短篇小説選』第一巻「花冷え」第二巻「一夜飾り」

第9分科会：「知的財産」は、健全な「ものづくり」に貢献できるのか？ （12月2日午前）

設置・連絡責任者：増澤誠一（特許庁分会） QZT11146@nifty.com

設置趣旨：知的財産（権）については、毎年、官邸直結で「知財推進計画」を作成し、総合科学技術会議も専門調査会で検討を進めている。模倣品対策、「国際漫画賞」創設などが話題になるが、大学への知財重視の要求は高まるばかりである。知財本部やTLO設置、特許出願を論文と同等に評価など、知財は研究生活において無視できない存在となり、矛盾と困惑も広がっている。日本の健全な「ものづくり」への貢献の視点から、大学関係者ともに検証していきたい。

【1】多羅尾光徳（大学教員） 国立大学教員の研究成果に特許の取得は許されるのか？

【2】小金澤鋼一（私大教員） 私立大学の知財状況について

【3】大山 光（民間技術者） 民間企業から見た、大学の知財状況の変化

【4】野村康秀（特許庁分会） 大学に関する知財政策の歴史的変化の整理

第10分科会：人類破滅につながるミサイル防衛システムを考える （12月2日午後）

設置責任者：武蔵野通研分会

連絡責任者：中野貞彦 s.nakano@t-net.ne.jp

設置趣旨：日本のミサイル防衛システムは、もしボタンが押されたなら、それは核戦争であり、想像を絶する被害が日本と世界に降りかかる。1兆円以上という莫大な浪費、軍事システムの日米一体化、現場指揮官に発射命令権を委ねた危険性、アジア・世界への緊張創出、科学・技術の軍事研究化、攻撃ミサイルの完全防御の不可能性など、様々な側面の実態と本質を明らかにし、ミサイル防衛システムに反対し撤廃させるよう世論を喚起していく。

【1】榊原道夫（元東海大学） ロケットは何故ミサイルになったか

【2】中野貞彦（武蔵野通研分会）浦崎黎明（同）伊藤 隆（同） 北朝鮮からのミサイルはどのように飛んでくるか

【3】伊藤 隆（武蔵野分会）浦崎黎明（同）中野貞彦（同） パトリオット・ミサイル（PA C-3）の配備に関連して

【4】山田 朗（明治大学） BMD構想の戦略的位置づけとその問題点

第11分科会：医療は今どうなっているのか？どこへ向かうのか？ （12月2日午前）

設置責任者：中野貞彦（武蔵野通研分会） 河野貴美子（日本医大） 真野響子（個人会員）

連絡責任者：中野貞彦 s.nakano@t-net.ne.jp

設置趣旨：政府は医療費削減、介護費用削減を中心にすえて医療・介護「改革」を進めており、「医療難民」「介護難民」という言葉が生まれています。深刻な医師不足、保険証取り上げ、コムスンのような儲けのために繰り返される違法行為など課題は山積しています。一方、がん対策基本法が施行され、患者代表が始めて政策決定に加わるなど、新しい改革も始まっています。

す。本分科会は、医療・介護の問題の全体像が分かるようにし、医療従事者と市民の連帯を広める一助にしたい。

- 【1】内田絵子（NPO 法人ブーゲンビリア理事長、NPO 法人がん患者団体支援機構副理事長）
「がん難民」をなくすために～がん対策推進基本計画と患者会の役割～
- 【2】東京民医連「高齢者生活実態調査」プロジェクト 「高齢者生活実態調査」の結果について
- 【3】片平洸彦（東洋大学） 医療費の『受益者負担』は当然か？ 社会保障の原則とあり方からの考察
- 【4】蔵野秀文（東京福祉専門学校非常勤講師） 制度が生み出す医療行為が必要な高齢者の問題～在宅介護で課題がある事例から～
- 【5】田代真樹（社会福祉法人であいの会） 地域包括からの在宅介護の現状と課題
- 【6】穂阪 健（立川相互病院） 三多摩健康友の会の活動と患者・住民の現状
- 【7】奥津竹子（地域福祉サービス協会副理事長） 安心できる老後を～高齢者に寄りそう介護保険制度の充実を～

第12分科会：9.11同時多発テロ - その前後を検証する

（12月1日午後）

設置責任者：増田正人（法政大学） 南雲和夫（個人会員）

連絡責任者：南雲和夫 kazuonagumo@msn.com

設置趣旨：2001年の9月11日に米国で発生した同時多発テロは、数千人もの犠牲者を出しただけでなく、今日にも続く米国による「対テロ戦争」の発火点となったことは記憶に新しいところである。一方で、この同時多発テロは、ブッシュ政権による情報操作の中で、さまざまな形で報道されてきたことも事実である（いわゆる「やらせ」＝「自作自演説」も含めて）。本分科会では、米国政府による公式報告、そのほかの公開された資料、文献を参考に、同時多発テロの前後で何が変化したか 合衆国の対外政策を中心に取り上げていく。また、いまだに根強い「自作自演」説についても、マクロ及びミクロの双方の視点から取り上げ、批判的に検討する。ブッシュ政権のすすめる「反テロ戦争」への批判から、必ずしも正しくない認識が生まれることは仕方がないと思われるが、本分科会では、誤解や曲解を排して、正確な事実と情報に依拠して討論していきたいと考えている。

- 【1】増田正人（法政大学） 国際社会の変化と今 9.11の前と後で何が変わり、変わらなかったか？
- 【2】南雲和夫（個人会員） 9.11『「自作自演」』説の検証 米国政府の公式発表、公式資料を中心に
- 【3】山下智子（都留文科大学講師） 資料解説：米国政府公式報告の検証から 文献から読み解く事実関係； 解題：米国政府公式報告について 文献から読み解く

第13分科会：平和・基地問題

（12月1日午後、2日午前）

設置・連絡責任者：阿部一雅（東京支部） jsaabe@mail.goo.ne.jp

設置趣旨：日本の首都東京には巨大な米軍横田基地があり、東京近郊横須賀の米軍横須賀基地には原子力空母が配備されようとしている。原子力空母や原子力潜水艦の核事故は、いつおこってもおかしくない。また何故グアム移転に3兆円ともいわれる金を使おうというのか？ 日本政府は日本国憲法に精神に沿って、米軍基地撤去とその跡地の原状復帰を要求し、土壌汚染などがあれば米国本土並みに対策をしてもとに戻すよう要求することこそ本来の姿であろう。

- 【1】金子 勝（東京支部） 「日米安保条約」体制の大改変と在日米軍再編成問題
- 【2】亀山統一（沖縄支部） 「沖縄から見る日米同盟」

- 【3】今野 宏（神奈川支部） 横須賀基地から見る日米同盟
- 【4】沢田昭二（愛知支部）米海軍依佐美基地とその撤去運動
- 【5】阿部一雅（東京支部）日本平和大会報告
- 【6】坂崎 一（東都生活協同組合）（テーマ名調整中）

第14分科会：＜メディアと権力＞の政治経済学

（12月1日午後）

設置・連絡責任者：伊藤 守（早稲田大学分会） mamorui@waseda.jp

設置趣旨：NHK による番組改竄はメディアに対する権力の介入の問題をあからさまな形で示した象徴的な事件であった。電波法や放送法などによる規制は以前からあったとはいえ、今日のデジタル通信技術の進歩による放送と通信の「融合」、通信放送分野の規制緩和、グローバル化のなかでの市場開放など現代的变化の中で、権力ブロックとメディアとの関係は複雑化し、権力ブロック側とメディアとの新たな接合がはじまろうとしているように見える。この分科会は、政治学、経済学、社会学など多様な分野から、今日のメディアと権力との関係を照射することを試みる。

- 【1】塚本三夫（中央大学） マスコミの「戦後」とは何であったのか
- 【2】伊藤 守（早稲田大学） インターネット時代のメディア構造
- 【3】原 寿雄（ジャーナリスト・元共同通信編集局長） メディアは権力を監視できるのか

第15分科会：教育基本法改定後の教育 - 東京都における教育専門性をめぐる現状と課題 -

（12月1日午後）

設置・連絡責任者：荒井文昭(都立大学・首都大学分会) qfg01025@nifty.com

設置趣旨：教育基本法の改定により、国が教育目標を設定し、かつ、その達成度を評価する危険性が生まれている。教育に対するこの国家統制政策は、住民の学ぶ権利の保障とその条件整備を国の責任として定めてきた 1947 年教育基本法の理念をあいまいなものにさせる危険性が高い。そして実際、東京都ではすでに先取りされている。すわなち、(1)教員に対する実質的な思想統制（不当な処分の乱発）、(2)教育職員の専門性軽視（不透明な教員異動、教員評価政策）などが横行している。本分科会では、これらの動向を批判的に検討すると同時に、教育の自由を守り発展させる取り組み事例から学んでいく予定である。

- 【1】清川久基（「日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会共同代表）
東京の教育行政と『日の丸・君が代』処分
- 【2】疋田哲也（分限免職処分取り消し訴訟原告）
東京都による分限免職処分取り消し訴訟の取り組み
- 【3】荒井文昭（東京都立大学 / 首都大学）東京都における教育専門性をめぐる現状と課題

第16分科会：平和憲法と食糧・農業

（12月1日午後）

設置・連絡責任者：宮村光重(日本女子大学名誉教授) msmiyamura@ybb.ne.jp

設置趣旨：消費者・国民の食に求める安全と安心、そして安定した供給は、国民だれもが、平和に、心配なく暮らせる世の中でこそ実現できます。現在の食だけでなく、先々の食をもたしかに保障する基本は、何処にあるのでしょうか。ついに3割台へと落ち込んだ食料自給率ではなく、我が国の農業を豊かに発展させ、国産食糧でしっかり食べていける姿・形がなくてはなりません。つまりは、日本国憲法が、人びとの暮らしの隅々にまで行き渡り、国の自立性、国民主権、民主主義が根づいて、国民なんびとといえども、生存権と幸福権を享受できることが求められます。ところが、国の最高法規である憲法をなにより遵守すべき首相はじめ各閣僚、そして自民党・公明党の政権与党等は、平和と民主主義の日本国憲法、とりわけその瞳にあたる九条をなきものにしようとし、必死です。その企図は、7月参議院選挙の自民党惨敗さらに安倍

総理の政権投げ出しに現れたように、国民の総スカンくらいでした。しかし、かれらの憲法改悪意図は、変わっていないでしょう。国民にとっての食と農、生命と暮らしのありようは、憲法とりわけ九条と密接不可分であることをいくつかの側面から照射し、参会された方々との共同論議をとおして、平和憲法変えさすまじの風をつよめたい。

座長：宮村光重（日本女子大学名誉教授）

【1】宮崎礼子（日本女子大名誉教授） 家庭・暮らし・家計と憲法

【2】中野一新（京都大学名誉教授） 多国籍アグリビジネスと現代資本主義国家

【3】真嶋良孝（農民運動全国連合会副会長） WTO・FTA/EPA と食糧主権

6. ポスターセッション： 12月1日、2日（募集中）

統括設置責任：日本科学者会議東京支部事務局（それぞれのポスターセッションにおいて責任者を決め支部事務局が統括する）

設置趣旨：分会、個人会員、若手・院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介し、活動の促進と親睦を図る。

7. 市民参加の諸企画： 12月1日、2日

（1）日中友好と歴史認識のための展示 12月1日、2日

実行責任者：長沼 仁（日中友好協会会員）

設置趣旨：戦後補償（中国）の展開とそれを支える日中両国の人たちの努力を映像とパネル展示と資料を活用して紹介する。

（2）ベトナム枯葉剤障害児写真展 12月1日、2日

実行責任者：松本マサ子（ベトナム枯葉剤障害児を支援する会会長）

設置趣旨：ベトナム戦争終結32年目の現在も、100万人以上の枯葉剤障害児が不自由な生活を送っています。今も尚、毎日枯葉剤3世（孫）は生まれ続けているのです。遺伝子破壊・生殖器ホルモン異常によっていつまで異常児は誕生するのでしょうか？ハノイ「平和村」では、18歳で村を卒業して社会へ就職して行くためのリハビリ、職業訓練（刺繍）に取り組んでいます。その写真を見てほしいのです。ベトナムの母親の苦しみの声が聞こえてきます。これまでの3回の写真展で、多くの人々の心に驚きと怒りと、そして平和への願いを強めました。ぜひ写真展にご来場ください。

- 第14回東京科学シンポジウム実行委員会 -

実行委員長：長田好弘（東京支部代表幹事） 事務局長：米田 貢（東京支部事務局長）

事務局：小嶋茂稔（支部常任幹事）中野貞彦（支部幹事）増田正人（支部常任幹事）

俣野景彦（支部常任幹事）山川賢次（支部常任幹事）山田雅弘（支部幹事）

委員：阿部一雅（東京支部）石渡真理子（全国常任幹事）一井 昭（支部参与）

岩佐 茂（支部幹事）尾崎寛直（支部幹事）河野貴美子（支部幹事）酒井士朗（武蔵野分会）

多羅尾光徳（支部常任幹事）橋本良仁（支部幹事）増澤誠一（支部幹事）

日本科学者会議東京支部 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

電話・FAX 兼用 (03) 3811-8281

第14回東京科学シンポジウムのホームページ：

http://www.jsa-t.jp/14_t-kagaku/t-kagaku.html

日本科学者会議東京支部 第14回東京科学シンポジウム 分科会一覧		2007年	
分科会名	発表 件数	12月1日(土)午後	12月2日(日)午前
		pm1:00~5:00	am9:20~12:20
第1分科会	9	○	12月2日(日)午後 pm2:30~5:30
第2分科会	3	○	
第3分科会	3	○	
第4分科会	4	○	
第5分科会	4	○	
第6分科会	4		○
第7分科会	7	○	
第8分科会	2		○
第9分科会	4		○
第10分科会	4		○
第11分科会	7		○
第12分科会	3	○	
第13分科会	6	○	○
第14分科会	3	○	
第15分科会	3	○	
第16分科会	3	○	
合計	69		分科会によっては終了時間が早まる場合があります。

第14回東京科学シンポジウム プレ企画 平和のためのコンサート

「平和と公正な社会を求めて」の学究的な論議とともに
音楽により心かよわせる

日 時：2007年11月24日(土) 開場：17時 開演：17時30分
会 場：一橋大学佐野書院(JR中央線・国立駅南口大学通りを南へ徒歩10分)
参加費：2000円
設置責任者：水林 彪(一橋大学)
石川紀子(若手演奏家を支援する会 TEL:03-3721-2845)

- プログラム -**第一部**

1. ギター独奏：名和田是彦(ギター, 法政大学)
バッハ・リュート組曲第1番のアルマンドとブーレ
2. ピアノとヴァイオリンの二重奏：相澤美智子(ピアノ)
水林 彪(ヴァイオリン)
ブラームス・ピアノとヴァイオリンのためのソナタ3番1楽章および2楽章
3. 弦楽四重奏： Quartet Sphere
佐藤 奏(1st バイオリ, 桐朋学園大学2年)
後藤薫子(2nd バイオリン, 桐朋学園大学2年)
叶澤尚子(ピオラ, 桐朋学園大学2年)
印田陽介(チェロ, 東京芸術大学2年)
ドボルザーク「アメリカ」

~休憩~

第二部

1. ギター, サキソフォーンによるデュオ：園田正史(ギター)
丹羽 剛(ソプラノサククス)
Turn out the stars(ビル・エバンス),
ナナ(七つのスペイン歌曲より M・ファリャ)ほか
2. 歌曲独唱： 陳 曦(メゾソプラノ・ソリスト)
伊坪淑子(ピアノ伴奏)
月のふるさと(彭邦楨作詞・劉庄作曲),
セギディーリャ(オペラ「カルメン」より・ビゼー),
鳥の歌(カタロニア民謡(長田好弘作詞)ほか

全員合唱